

第29回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第29回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月28、29の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で男子8階級（7体重別と22歳未満の部）計522人と女子7階級、計83人の合計605人がエントリして熱戦を展開した。

初日の男子は66kg級で鳥居智男4段（26歳）が旧65kg時代からの3連勝を果たした。73kg級・新田雅史4段（26歳）は2連覇、60kg級・漆畑健3段（24歳）も2年ぶり2度目、81kg級の村田龍一2段（22歳）は初出場初優勝をものにした。また、22歳未満の部では古賀宗裕2段（18歳）が逆転の一本勝ちで初優勝した。

女子は前年のバンコク・アジア競技大会48kg級金メダリスト、真壁友枝3段（24歳）が他を寄せつけず2年ぶり3度目の貫録を示した。52kg級は猿渡夏子初段（19歳）、57kg級は植田庸子3段（24歳）がそれぞれ初優勝した。

最終日は男子100kg超級の江上忠孝3段（23歳）が連覇を狙うベテラン下出善紀5段（29歳）に袖釣り込み腰で逆転、初優勝を飾った。100kg級の小嶋新太3段（24歳）は総合警備保障、90kg級の三矢諭2段（22歳）もそれぞれ逆転の初優勝だった。

女子78kg超級は柳花美鈴2段（23歳）が同じダイコロのカーリーナ・ブライアント2段（20歳）と接戦の末、指導で下して初のタイトルを手にした。78kg級はワールドカップ日本代表だった福場由里子3段（27歳）が旧72kgと合わせて4年ぶり2度目。

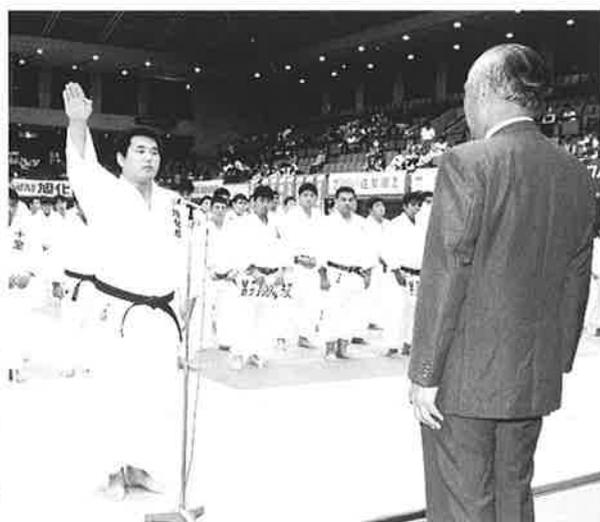
70kg級の天尾美貴初段（23歳）、63kg級の南千草2段（21歳）は、いずれも初優勝。



開会式で挨拶する山口信夫会長



大会での優勝目指し、全国各地から出場した選手が集う開会式



力強く健闘を誓う下出選手（旭化成）

男子100kg超級 『江上、袖釣込腰一本』

ベテラン下出の2年連続、3度目のタイトルがもう目前にちらつき始めていた。それは、まさしく油断大敵の四文字としか言いようがない結果だった――。

新進気鋭の江上は開始直後から下出のふところに飛び込んで袖釣り込み腰の連続攻撃を仕掛ける。そのあと組み手争いに終始したため両者に指導。なおも江上が袖釣り込み腰に出ようとして崩れ、下出に突き倒された形で効果を取られる。このあたりは、さすがベテラン下出ペース。両者組み手決まらず注意を受けるが、意を決した江上、飛び込んで思い切った袖釣り込み腰を掛ければ、下出たまらず宙を舞って大の字に落ちた。

この日、江上は決勝戦まで5戦4一本勝ち。相手が執ように警戒しても得意技の袖釣り込み腰が炸裂し、まさに騎虎の勢이었다。



優勝した江上選手
(九州電力)

やっと五分になりました

江上の話 下出さんとの対戦成績は過去1勝2敗、今日でやっと2-2の五分になりました。周囲は強い人ばかりです。とにかく目の前の人と一戦一戦やっつけていこうという気持ちでした。準決勝の安蒜君には背負い投げだったと思うのですが、決勝の下出さんはパワ―がすごい。つかまれて振り切ろうと下がったところをしりもちで効果とられた。ぼくの入りぎわを外で合わされたのですね。勝ったのはマグレです。

【成績】

- 優勝 江上忠孝(九州電力)
- 準優勝 下出善紀(旭化成)
- 第3位 上口孝太(慈雄会)
- 第3位 安蒜健一(日本中央競馬会)

▽準々決勝

- 下出 優勢勝ち 田村(日本道路公団)
- 上口 優勢勝ち 浦田(日本道路公団)
- 安蒜 優勢勝ち 赤井澤(京葉ガス)
- 江上 袖釣込腰 谷本(総合警備保障)

▽準決勝

- 下出 大内刈 上口
- 江上 袖釣込腰 安蒜

▽決勝

- 江上 袖釣込腰 下出

男子100kg級 『小嶋、逆転「警告」勝ち』

宗は右、小嶋は左のけんか四つ。互いに引き手が取れず、組み手争いに両者指導。身長190cmの宗、180cmの小嶋を得意の右内股で投げ有効を奪う。その後も互いに引き手が取れず両者注意。残り1分10秒、宗の内股を小嶋、左小外掛けに返して効果。しかし、これではまだ有効に及ばない。リードされている小嶋なおも激しい反撃に出る。反対にリードしている宗は防戦一方に回り、残り20秒、宗に警告が与えられ、これで勝負あり。小嶋は気力と体力で逆転勝ちした。



優勝した小嶋選手
(総合警備保障)

減量がうまくいった

小嶋の話 自分の体重は最も重い時で118kgでしたが、今回100kg級に下げました。減量は苦しかったです。すっかりスマートになって、攻める時は軽くてちょうどいいけど、受けが軽くなって少し困りました。講道館杯は、このまま100kg級で出たいです。でも、秋の熊本国体代表にも決まったので、また体重も増量したいし、実は大変なんです。

【成績】

- 優勝 小嶋新太(総合警備保障)
- 準優勝 宗 真一郎(九州電力)
- 第3位 福田隆文(九州電力)
- 第3位 大野義啓(ダイコロ)

▽準々決勝(5回戦)

- 宗 警告 深川(日本道路公団)
- 福田 上四方固 一宮(九州電力)
- 小嶋 一本背負 堺(九州電力)
- 大野 総合勝ち 坂本(國学院院友クラブ)

▽準決勝

- 宗 内股 福田
- 小嶋 内股 大野

▽決勝

- 小嶋 警告 宗

男子90kg級 “三矢、逆転の縦四方固”

決勝戦は、前年度優勝の繁昌（旭化成）を五回戦で破った有川と、入社一年目の三矢との戦いとなった。開始10秒有川が機先を制して三矢をかついだ。頭から落ちた三矢、しばらくタイム。再開後、三矢は左内股で攻める。これに対し有川は足払い効果、右浮腰で技有りとりードを奪う。

しかし、終盤3分32秒、有川の右背投げを左小外で、あびせ倒すように返して三矢が有効を取り、そのまま縦四方固めに押え込む。残り20秒、三矢が最後まで試合をあきらめぬ勝負強さ、巧者ぶりが光った。両者なかなか好試合を見せてくれた。



優勝した三矢選手
(日本道路公団)

組み合わせにも恵まれ

三矢の話 今回は体の調子もよく思い切った動けた。組み合わせにも恵まれて余り苦労なく決勝へ進めた。おかげで体力温存できた。決勝の試合は、あれはあれしかないんです。

今年社会人になったばかりで初めてのタイトルは、やはりうれしいですね。今日は講道学舎の先輩小嶋さん、中大の先輩江上さんが優勝して、自分のことのようにうれしい。11月の講道館杯では上位じゃなく、優勝を狙います。

【成績】

- 優勝 三矢 諭(日本道路公団)
- 準優勝 有川光誠(総合警備保障)
- 第3位 高橋徳三(新日鐵広畑)
- 第3位 秋葉洋一(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

- 有川 背負投 繁昌(旭化成)
- 高橋 優勢勝ち 中嶋(日本道路公団)
- 三矢 払い腰 福井(ダイコロ)
- 秋葉 優勢勝ち 小橋(総合警備保障)

▽準決勝

- 有川 背負投 高橋
- 三矢 大外刈 秋葉

▽決勝

- 三矢 縦四方固 有川

男子81kg級

“村田、左体落とし効果”

6月の団体対抗(神戸市)三部優勝がデビュー戦の村田は、自他ともに許す優勝候補の一角に浮上した。初戦から田村(三洋電機)に左体落とし効果↓押え込み、福原(総合警備保障)も崩れ上四方固めと難なく退け、やや苦戦して旗判定3-0に持ち込まれたのは奥村(ダイコロ)との準々決勝戦だけ。あとは全て一本勝ちでの決勝進出。相手の中田もなかなかの試合巧者。しかし両者指導のあと、村田が大外刈り、体落とし、支え釣り込み足と続けざまに攻め立て、2分30秒に左体落としで効果を挙げた。その後村田は、寝技でも優位に進める。中田は挽回を図ろうとするが、時間切れとなった。



平成管財

優勝した村田選手
(平成管財)

個人タイトルは初めて

村田の話 大学―社会人を通じて初の個人タイトルです。中田君とは、これで1勝1敗になりました。今回は自分でも優勝するつもりでいたので勝てると思っていました。会社は大阪市にあるけど、ふだんの練習は東京で日大と警視庁でやっています。自分は学生時代、あまり寝技をやらず、立ち技に専念してました。社会人になってからですね、寝技は――。講道館杯は、上位というだけでは不満、優勝を狙いたい。

【成績】

- 優勝 村田龍一(平成管財)
- 準優勝 中田善久(セコム)
- 第3位 鈴木浩之(旭化成)
- 第3位 平岩朋二(セコム)

▽準々決勝

- 鈴木 優勢勝ち 徳間(せこう)
- 村田 優勢勝ち 奥村(ダイコロ)
- 平岩 優勢勝ち 尾辻(日本道路公団)
- 中田 優勢勝ち 加美(合同産業)

▽準決勝

- 村田 小外掛 鈴木
- 中田 警告 平岩

▽決勝

- 村田 優勢勝ち 中田

男子73kg級 // 新田、豪快に釣腰 //

南保(明送)に技有り、土屋(日体大柔友会)に旗判定で勝ち、これで強い相手は全て潰したといった感じの新田だ。井川に対して、ちよっと格が違うのではないか、そんな柔道で一本を決めた。得意技が出た。両者組んで慎重に動くうち、たった一発の大技が豪快に決まった。前も後もない、この一発だ。めったに見られない大技に、役員席も選手・客席も、しばし感嘆の声がどよめいた。見事な2連覇である。



優勝した新田選手
(京葉ガス)

亡き恩師に報告

新田の話 決勝は、こっちも疲れてるし、向こうも同じだろう。ここで入るしかないと思した技です。あれは大腰じゃないのですか？そうか、上から持ったら釣腰ですね。

実は25日に小く中学校と柔道を教わった山岸弥太郎先生が亡くなったんです。きのう27日の告別式に羽中市(石川県)へ行き、式の前に15分間だけ顔を見て……。だから疲れてましたが、何としてでも勝ちたかった。優勝は先生の墓前にも報告したい。また何よりも会社の人みんなに恩返しできて良かったです。

【成績】

優勝 新田雅史(京葉ガス)
準優勝 井川清隆(総合警備保障)
第3位 土屋好英(日体大柔友会)
第3位 吉岡正人(新日鐵広畑)

▽準々決勝

○新田 大外刈 中島(自衛隊体育学校)
○土屋 大外刈 中山(総合警備保障)
●井川 優勢勝ち 牧瀬(自衛隊体育学校)
○吉岡 優勢勝ち 高田(自衛隊体育学校)

▽準決勝

●新田 優勢勝ち 土屋
○井川 合わせ技 吉岡

▽決勝

○新田 釣腰 井川

男子66kg級 // 全一本勝ちの鳥居 //

前年のタイトルホルダー鳥居、ついに全て一本勝ちを決めた。立つても寝ても強い鳥居は、決勝戦開始早々寝技に引き込みが決めきれず。立つてすぐ左払い巻き込みが技有りとなる。終始鳥居に攻められて防戦一方の大西に指導が与えられる。2分すぎ、今度は左内股から巻き込めば技有りとなり、合わせて一本。圧倒的な強さでの優勝であった。



優勝した鳥居選手
(そごう)

挑戦者の気持ちです

鳥居の話 今日、前からの右ひざ、手首のけがもあり、初めは動きが悪かった。勝ち進むにつれて調子は上がってきたけど、最後はバテました。決勝の大西君とは初めての対戦です。左と左の相四つで、自分が左足を出してるところに大外刈りがきて、それを払い巻き込みで切り返したんです。いまは突進あるのみ、挑戦者の気分ではないと。去年、講道館杯で勝ち、2月の国際大会で負けてしまった。福岡の体重別(4月)でちよっといい試合ができたけど、アジア選手権で負けてしまったので、またゼロから出直します。

【成績】

優勝 鳥居智男(そごう)
準優勝 大西賢治(明送)
第3位 大石公平(ダイコロ)
第3位 石川正樹(東芝本社)

▽準々決勝

○鳥居 横四方固 手塚(西興産業)
●大石 優勢勝ち 飛田(自衛隊体育学校)
○石川 警告 大崎(そごう)
○大西 支釣込足 南條(ダイコロ)

▽準決勝

○鳥居 内股 大石
●大西 優勢勝ち 石川

▽決勝

○鳥居 合わせ技 大西

男子60kg級 “漆畑、小外刈ポイント”

昨年2位の吉岡、同3位漆畑の顔合わせとなった。吉岡は昨年、効果を先取りしながら松本（セコム）の十字固めに逆転された苦い体験がある。一方の漆畑は一昨年の王者で、昨年は松本に優勢負けで準決勝止まり。今回はその松本に有効で、お返しをしての決勝進出だ。

漆畑は右、吉岡は左のけんか四つ。互いに攻めきれず、慎重な攻防が続く。残り1分を過ぎたころ、漆畑の右小外刈りに吉岡たまらず場外で崩れる。判定となれば、これがポイントになる。吉岡も時間まで懸命に左足を飛ばし、小内刈りを狙うが相手を崩すまでに至らなかった。判定の旗は3-0で赤、漆畑に上がった。

この軽量級、実力が接近して大接戦であった。



東芝

優勝した漆畑選手
(東芝本社)

昼休みも利用して

漆畑の話 昨年は思うように力を出せず、今一つの成績だったので今年は勝負に賭けてきました。とは言っても練習量は週2〜3回と少なかったので、そんなに自信を持ってたわけでもありません。昼休みとかを利用して自分なりに練習時間を作ったりしました。職場の仲間にも協力してもらい、減量のアドバイスとか良かったです。

松本さん、吉岡君に去年負けてますので、今年は絶対に負けたくなく、必ず勝とうと強気で臨みました。まあ、技の出が悪いとかの課題は残りましたが、自分なりに良い試合ができたと思っています。

【成績】

- 優勝 漆畑 健(東芝本社)
- 準優勝 吉岡博之(自衛隊体育学校)
- 第3位 松本秀彦(セコム)
- 第3位 松田直彦(近畿通関)

▽準々決勝

- 松本 警告 関口(総合警備保障)
- 漆畑 優勢勝ち 百瀬(村山整骨院)
- 松田 優勢勝ち 上野(セコム)
- 吉岡 優勢勝ち 原田(総合警備保障)

▽準決勝

- 漆畑 優勢勝ち 松本
- 吉岡 背負投げ 松田

▽決勝

- 漆畑 優勢勝ち 吉岡

男子22歳未満 “古賀、逆転の絞め”

大卒が多くなった各企業・事業所の中で、この種目は高卒者主体であり(1人だけ短大卒あり)新人の登竜門として毎回注目を集めている。しかも、ただ1種目のオープンカテゴリー(体重無差別)だから70kg台の人も6人まじっていた。

激戦から抜け出したのは180cm、120kg、18歳の古賀(佐賀商出身)と180cm、100kg、20歳の山田(清風高出身)だった。ともに右組み、1分過ぎに山田の大外刈り有効となって静かなる戦いに炎熱の火が走った。やや体格にまさる古賀、ここから攻撃開始となると、山田は苦しまぎれの背負い投げに出てつぶされる。1回戦でも絞め技で勝った古賀、この技が得意と見え、器用に山田を絞めると、山田たまらず右手で古賀の腰部をたたき「参った」。1分40秒。周囲騒然の逆転劇。



平成管財

優勝した古賀選手
(平成管財)

絞め技は得意です

古賀の話 立ち技は内股、足払い、背負投げ、寝技は絞め技が得意なんです。父も三段で自営業(材木業)。ボクは佐賀市内の尚柔会で中一から習い始めました。昨年は九州総体で優勝しただけで、インターハイはベスト16で終わり。社会人になって六月の団体対抗(神戸市)は三部優勝しました。

今後、更に練習を重ね、確実に一本取れる得意技を身につけ、もっと上の大会を目指していきたいと思っています。

【成績】

- 優勝 古賀宗裕(平成管財)
- 準優勝 山田大樹(セコム)
- 第3位 金杉信昭(鐵心館秋元道場)
- 第3位 磯崎尚範(新日鐵大分)

▽準々決勝

- 金杉 大内刈 渡会(清水建設)
- 古賀 袈裟固 田中(大阪ガス)
- 山田 優勢勝ち 小野原(旭化成)
- 磯崎 優勢勝ち 大山(平成管財)

▽準決勝

- 古賀 内股 金杉
- 山田 抱い投げ 磯崎

▽決勝

- 古賀 送り襟絞 山田

女子78kg超級 柳花、殊勲の初優勝

同門対決。世界選手権英国代表のブライアントに柳花が挑戦する。お互い手の内を知りつくしており、静かなる4分間に終始した。

柳花は左、ブライアント右のけんか四つ。互いに組み手争いが長い。後半、柳花が有利な体勢を作り、内股を掛けたが、これは場外でポイントに結びつかない。残り1分半、消極的なブライアントに指導が与えられた。いつブライアントの豪快な切れ味が出るか？を期待した人には物足りなかつたに違いない。なにしろ世界選手権大会の開催される(10月、バーミンガム)地元英国代表なのだから……。



優勝した柳花選手 (ダイコロ)

決勝で会おうね、と

柳花の話 初対戦なんです。相手は世界選手権の代表なので、取りあえず悔いが残らないよう技を掛けました。今日は調子が良くって一回戦、気を抜いたところを工藤さんに効果取られただけ。妹尾さんには1週間前の全国体重別(11月23日)近畿予選決勝で警告負けしたので、今日は判定でもいいから、勝ちたいと思っていたら自分でも信じられない一本勝ちでした。これでカリーナと「決勝しよう」という約束が果たせてうれしかった。

【成績】

優勝 柳花美鈴(ダイコロ)
準優勝 カリーナ・ブライアント(タイコロ)

▽1回戦

○ブライアント 内股 (日本生命)
○(タイコロ) 万井

●妹尾 優勢勝ち (ミキハウス) 安道 (ダイコロ)

○柳花 上四方固 (ダイコロ) 工藤 (西興産業)

▽準決勝

○ブライアント 大外返し 鈴木 (ミキハウス)

○柳花 大外返し 妹尾

▽決勝

○柳花 優勢勝ち カリーナ・ブライアント

女子78kg級 福場、健在ぶり示す

住友海上女子柔道部発足以来の1期生、福場は、実業団の中では、だれよりも数々の舞台を踏んだベテランである。しかし、故障によりしばらく試合から遠ざかっていた。未だ、本来の調子にはもどっていないが、久しぶりのカムバック。しかし福場健在なりノ3試合全部を固め技(絞め1)で一本勝ち。押え込みのポイントの決め方も実に見事で、称賛の声しきりであった。この決勝は開始直後、両者崩れたところを福場、上から得意の横三角で攻め、腕をきめて、足を抜いての横四方固め。地力の差を見せつけた。



優勝した福場選手 (住友海上)

W杯から1年ぶりです

福場の話 公式戦はワールドカップ(98年9月、ベラルーシ)以来です。出たくなって来ました。ひざの故障が日常生活に支障を来たすまになつたので、ワールドカップ後、手術して1年近く休んだため、けいこ不足ですね。まだ完全には治ってないと思います。これからのことですか? さあ、後輩たち、どんどん強くなって来るから出られるかどうか……。

【成績】

優勝 福場由里子(住友海上)
準優勝 上野文子(肥後銀行)
第3位 佐藤和枝(ミキハウス)
第3位 外岡裕子(セコム)

▽1回戦

○山下 優勢勝ち 大久保 (セコム上信越)

▽2回戦

○福場 上四方固 山下 (住友海上)

○佐藤 払腰 時津 (綾羽) (ミキハウス)

○上野 警告 古岡 (住友海上) (肥後銀行)

○外岡 優勢勝ち 空田 (東洋観光) (セコム)

▽準決勝

○福場 送り襟絞 佐藤

○上野 反則負け 外岡

▽決勝

○福場 横四方固 上野

女子70kg級 “天尾2-1辛勝”

両者左組み。前半は2年連続全日本女子体

重別の女王天尾が内股猛攻を見せる。貝山よく踏んばるが残り2分30秒で、ついに指導(片襟)を取られる。残り1分30秒、今度は内股で効果と天尾着々加點。貝山必死に食い下がる。残り30秒、ここで技の出ない天尾に指導、続いて残り15秒貝山の太外刈りは効果で両者ポイントで同数になる。後半、すくい投げでも何でも取ろうという貝山の気迫はすごいものがあつた。

しかし、判定は2-1で赤の天尾に女神は微笑んだ。

【成績】

優勝 天尾美貴(コマツ)
準優勝 貝山仁美(住友海上)
第3位 石橋千里(総合警備保障)
第3位 小取美輪(コマツ)

▽一回戦

○藤本 小内刈り 高橋(セコム)
○上西 不戦勝 磯川(肥後銀行)
○石橋 後袈裟固 花増(ミキハウス)
○中市 横四方固 佐々(肥後銀行)
○阿茶 不戦勝 田中(総合警備保障)

▽準々決勝

○天尾 内股 藤本(コマツ)
○石橋 横四方固 上西
○小取 優勢勝ち 中市(コマツ)
○貝山 崩上四方固 阿茶(住友海上)

▽準決勝

○天尾 優勢勝ち 石橋
○貝山 優勢勝ち 小取

▽決勝

○天尾 優勢勝ち 貝山



優勝した天尾選手(コマツ)

世界代表になれなかったの

天尾の話 今回、体調はすごく悪かったですよ。直前のシドニー強化合宿の疲れがたまっていましたから。でも五月の全日本体重別で優勝したが、世界代表になれなかったの、一発このへんでやっておかないと駄目という気持ちで頑張りました。

課題は内股につなげる足技をみがぐことです。内股だけでは通用しなくなりますから。

女子63kg級 “同門対決、南のパワー勝る”

ミキハウスの同門対決。160cm赤岡、173cm南。どちらも気合いでは負けていない。

右足を飛ばして牽制するのは赤岡。袖釣り込み腰に勝負を賭け、執念で南を投げようとする赤岡。しかし、この先制攻撃は、わずかに場外となつて決まらない。両者、組み手が右と左で組みにくく、32秒で両者指導。残り1分30秒、南の大内刈りに赤岡、どーんと大きく後退、踏んばり切れずに、しりもち。これが効果となり決勝点となった。

赤岡も最後まで両手刈りを重ねて死中活を求めようとした。その敢闘精神は買える。

【成績】

優勝 南 千草(ミキハウス)
準優勝 赤岡志保(ミキハウス)
第3位 木本奈美(住友海上)
第3位 山田真由美(コマツ)

▽一回戦

○平山 不戦勝 山口(コマツ)
○岩藤 体落し 三代(日本製薬)
○海野 大外刈り 小淵(フエザー安全剃刀)
○柳田 縦四方固 古川(住友海上)

▽準々決勝

○木本 内股 平山(住友海上)
○南 体落し 岩藤(ミキハウス)
○山田 崩袈裟固 海野(コマツ)
○赤岡 優勢勝ち 柳田(ミキハウス)

▽準決勝

○南 優勢勝ち 木本
○赤岡 優勢勝ち 山田

▽決勝

○南 優勢勝ち 赤岡



優勝した南選手(ミキハウス)

もう一度いい思いをしたい

南の話 優勝できるとは思っていませんでした。ただ、組み手もきびしく、技もよく出たのが勝因と言えは勝因になるでしょう。これだけでなく全国体重別で優勝して、もう一度いい思いをしたいです。

赤岡先輩と同じ道場なのに今まで全くけいこしたことないので、その点とくにやりづらというところはありませんでした。

女子57kg級 // 植田三姉妹の末っ子 //

昨年優勝の茂木は左、3位だった植田は右の、けんか四つ。開始40秒過ぎに茂木の内股を植田が小外刈りで返して効果。ポイント挽回を目指す茂木が組み手争いにまさり、多彩な技で攻勢を続けるが、植田はさすがにベテラン、修羅場の数も多く越えているだけに、そつがない。茂木の猛反撃を振り切つてブザーを迎えた。

ちなみに植田は長姉早苗がダイコロ時代52kg級で2位、次の睦(筑波大)ミキハウス↓現佐世保重工業)が1991バルセロナ世界選手権で52kg級銅メダルの三番目で湊川女子↓天理大。植田三姉妹のラストメンバーである。



優勝した植田選手 (ダイコロ)

小外刈りは自然に出た

植田の話 目標は優勝でした。一試合、一試合、自分のいい柔道をできれば勝ると信じていました。決勝の小外刈りは狙ったのではなく、内股を防ぐつもりで体を開いてとつさに出たのが小外刈りでした。

茂木さんとの対戦は去年の女子体重別で大内刈りをかけて返され、押え込まれ一本負け。同じく8月のこの大会では準決勝で指導か注意で負けて3位。今年5月の体重別(代々木)では大内刈りの有効で勝ちました。強化合宿でもやつてるし、手の内は、お互い分かっていますから。

【成績】

- 優勝 植田庸子(ダイコロ)
準優勝 茂木仙子(住友海上)
第3位 有櫛志保(コマツ)
第3位 赤野仁美(セコム)

▽一回戦

- 佐藤 不戦勝 (中原)
(フェザー安全剃刀)
○中橋 不戦勝 (本田)
(ダイコロ) (日本生命)

- 有櫛 優勢勝ち (横澤)
(コマツ) (タカメディカル)

- 植田 内股 (南田)
(ダイコロ) (肥後銀行)

- 西江 不戦勝 (大塚)
(日本生命) (コマツ)

- 赤野 体落し (本田)
(セコム) (フェザー安全剃刀)

- 井上 袈裟固 (宮本)
(コマツ) (西興産業)

▽準々決勝

- 茂木 送り襟絞 (佐藤)
○有櫛 優勢勝ち (中橋)

- 植田 払腰 (西江)
○赤野 優勢勝ち (井上)

▽準決勝

- 茂木 合わせ技 (有櫛)
○植田 警告 (赤野)

▽決勝

- 植田 優勢勝ち (茂木)

女子52kg級 // 新鋭同士は猿渡 //

両者右組み。まず開始早々、横澤(前年の高校選手権優勝、前橋東高出身)の左釣り込み腰をかわした猿渡が35秒に同じ左釣り込み腰で有効をもぎ取った。取りかえさんと横澤激しく動いて攻めるが、ポイントを取るにいたらず。技の応酬、攻防は同年者対決にふさわしく、また見ごたえのある内容となった。猿渡は長身を利し、リードを守り切った。



優勝した猿渡選手 (ミキハウス)

将来につながって良かった

猿渡の話 勝って、とってもうれいんです。(ミキハウスの)橋本先生や日蔭(暢年)先生から「ガンガンいけ」と声を掛けられていました。相手は同年だし、強化選手に入っているし、ここで勝たないと将来につながらないので、勝って良かったです。でも、私は課題だらけ。もつともっと頑張らないと。

【成績】

- 優勝 猿渡夏子(ミキハウス)
準優勝 横澤由貴(住友海上)
第3位 坂井律子(トヨタ自動車)
第3位 松井彩美子(セコム)

▽一回戦

- 坂井 不戦勝 (堀)
(トヨタ自動車) (東洋観光)

- 秋山 不戦勝 (瀬尾)
(綜合警備保障) (ミキハウス)

- 植田 不戦勝 (黒川)
(佐世保重工業) (西興産業)

- 本田 優勢勝ち (西)
(肥後銀行) (日本製薬)

▽準々決勝

- 坂井 不戦勝 (永井)
(住友海上) (ダイコロ)

- 横澤 肩固 (秋山)
(セコム) (ミキハウス)

- 松井 優勢勝ち (植田)
(猿渡) 優勢勝ち (本田)

▽準決勝

- 横澤 上四方固 (坂井)
○猿渡 上四方固 (松井)

▽決勝

- 猿渡 優勢勝ち (横澤)

女子48kg級 // 真壁、足技で効果 //

昨年のアジア大会(バンコク)女王で、日本の女子48kg級田村(トヨタ自動車)、長井(コマツ)とともに三強の一角に入る真壁に対し、これまた前年の高校チャンピオンだった小田(湊川女子高出身)の初挑戦だ。真壁左、小田右。この小田は最初から積極果敢に技を掛け、真壁のふところへ飛び込むが決め手に至らず。33秒、真壁の出足払いが飛んだ。効果も立ち技も真壁ペース。小田は、しかし最後まで真壁の左を殺して攻める。アジア大会の女王にここまで戦ったのは立派な新人だ。

【成績】

- 優勝 真壁友枝(住友海上)
- 準優勝 小田智子(ミキハウス)
- 第3位 吉田清美(ミキハウス)
- 第3位 宮之原まゆみ(ミキハウス)

▽1回戦

- 藤堂 横四方固 (東洋観光) 大関 (セコム上信越)
- 吉田 優勢勝ち (ミキハウス) 牧野 (綾羽)
- 小川 優勢勝ち (セコム) 鈴木 (コマツ)
- 平田 不戦勝 (ラエザー安全剃刀) 三浦 (コマツ)
- 小田 優勢勝ち (ミキハウス) 松本 (住友海上)
- 鳴川 優勢勝ち (肥後銀行) 加藤 (セコム上信越)
- 宮之原 優勢勝ち (ミキハウス) 芳岡 (東洋観光)

▽準々決勝

- 真壁 横四方固 藤堂
- 吉田 優勢勝ち 小川
- 小田 腕挫十字固 平田
- 宮之原 払腰 鳴川

▽準決勝

- 真壁 腕挫十字固 吉田
- 小田 合わせ技 宮之原

▽決勝

- 真壁 優勢勝ち 小田



優勝した真壁選手 (住友海上)

自分のリズムで戦えました

真壁の話 体調は良くないですよ。もうボロボロ。今日は一つ一つ大切に戦いました。去年の福岡国際では田村さんに、今年の体重別では長井さんに、それぞれ完敗してますから。アジア選手権(温州)でも決勝で落としてます。後期に向けて巻き返しを図ったので、優勝して少し自信を取り戻せたのがうれしい。秋の全国体重別は、やりますよ。

熱戦風景



女子70kg級決勝、貝山の掬い投げは惜しくも「待て」



男子100kg超級決勝、江上 袖釣込腰で下出を攻める



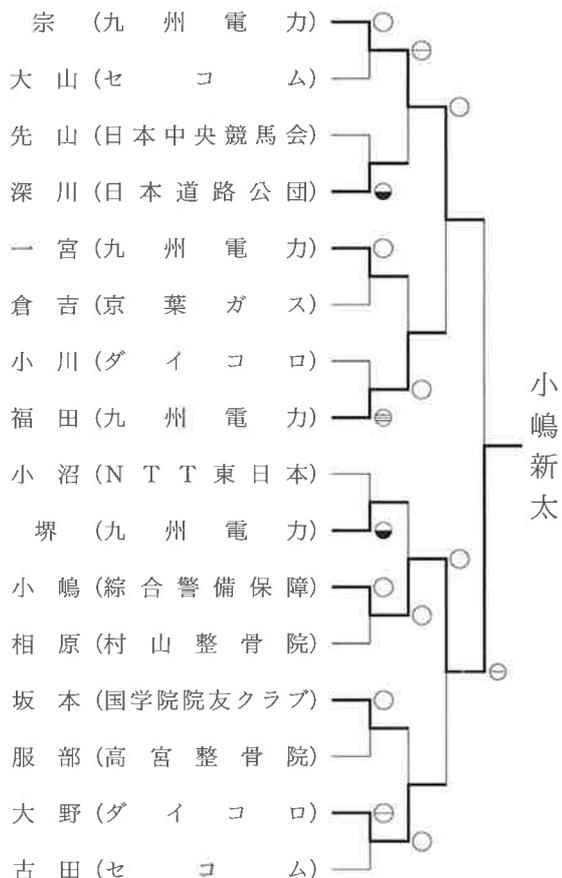
女子78kg級決勝、福場、横四方固で押える



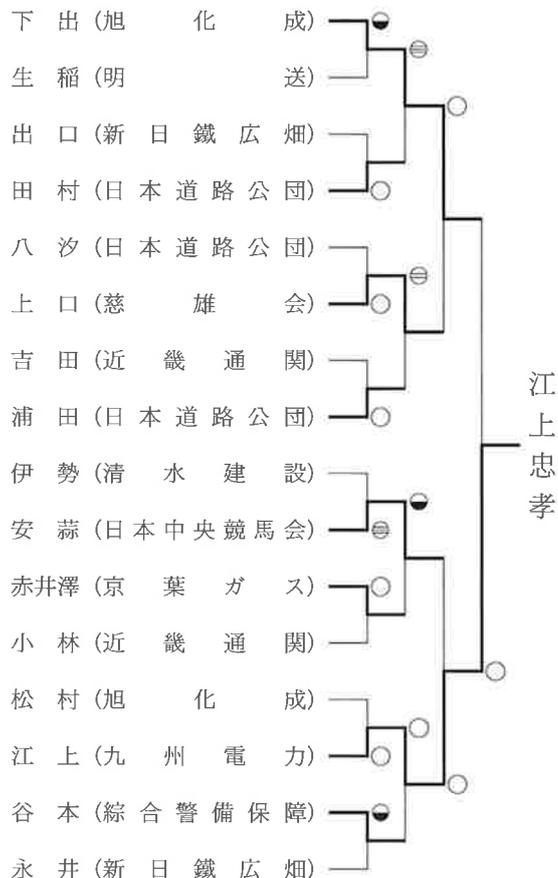
男子73kg級決勝、新田の釣腰が見事に決まる

績 表

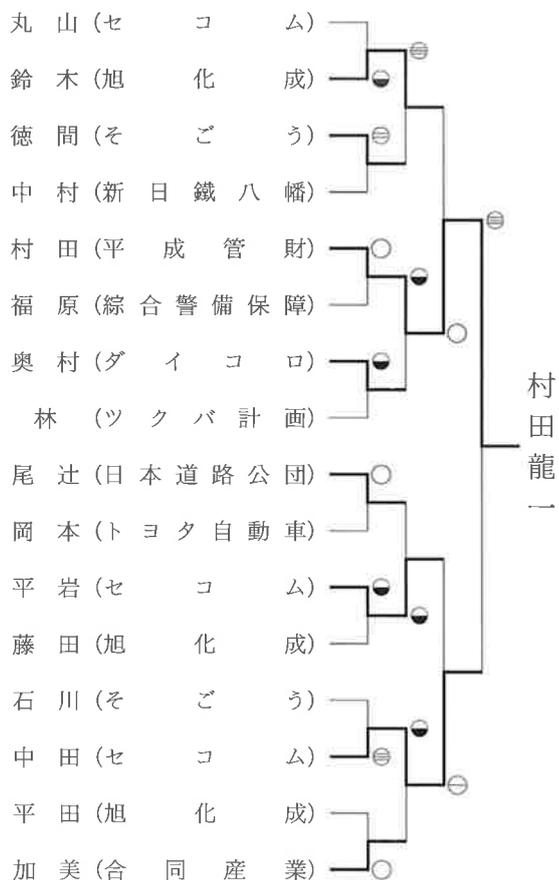
【男子100kg級】



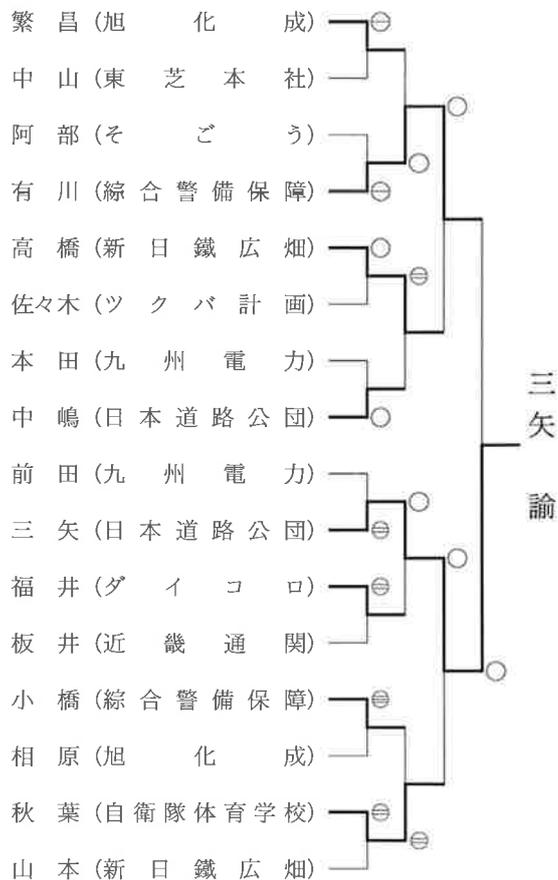
【男子100kg超級】



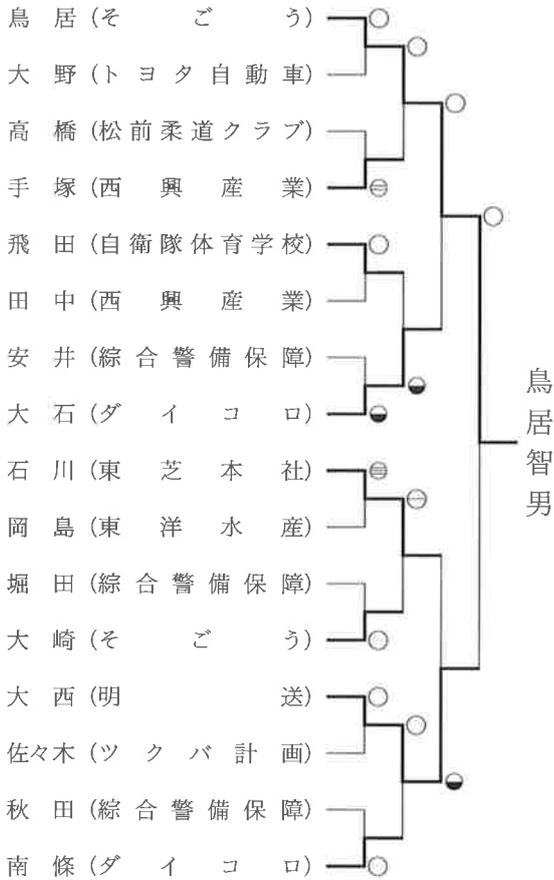
【男子81kg級】



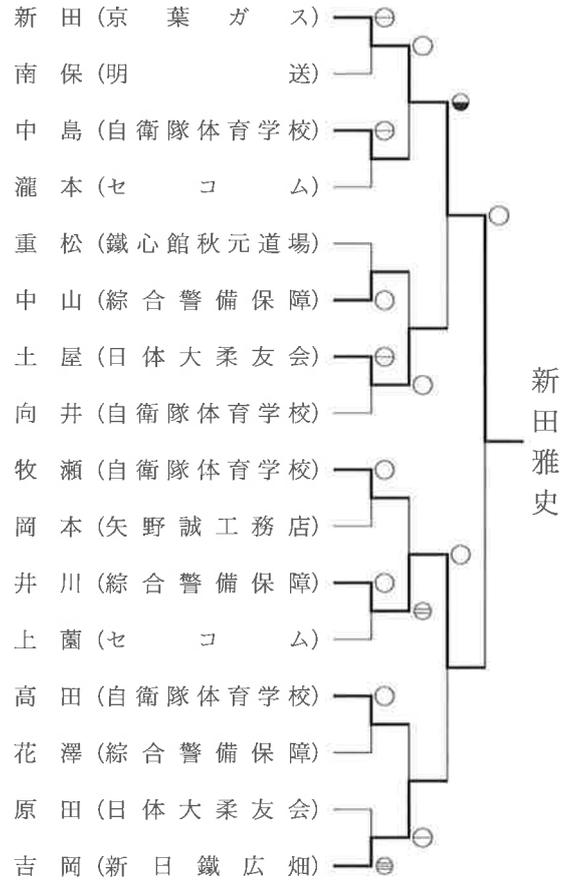
【男子90kg級】



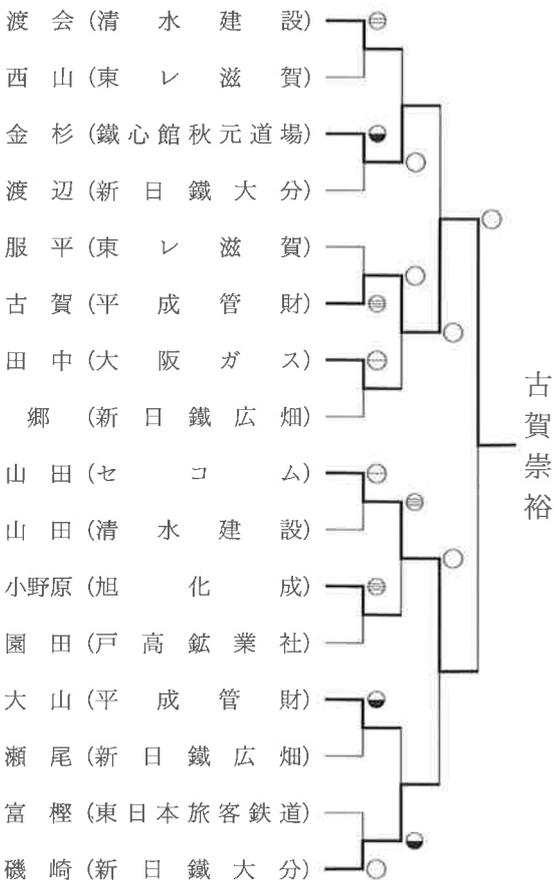
【男子66kg級】



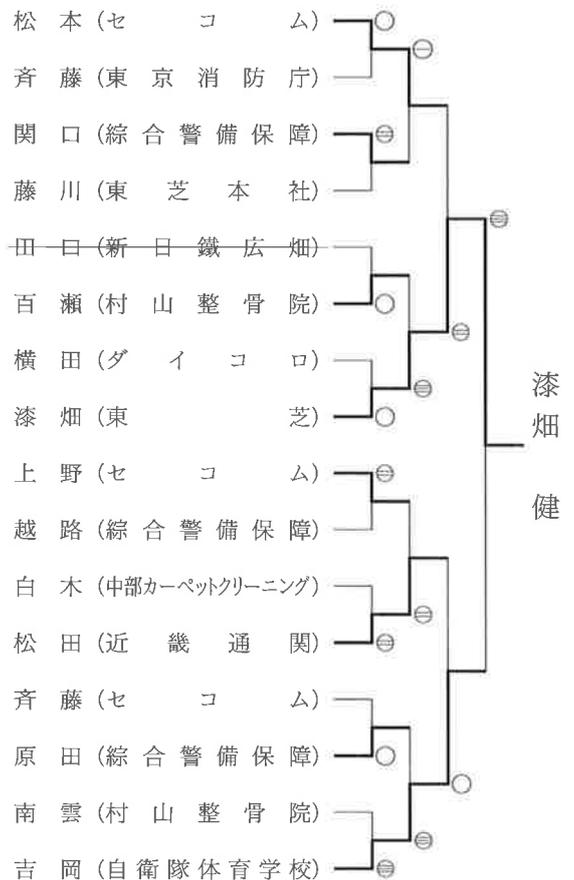
【男子73kg級】



【男子22歳未満】



【男子60kg級】



「指導者講習会」開催される

全日本実業柔道連盟「指導者講習会」が、1回目7月10日(土) 東京・講道館、2回目9月4日(土) 大阪・ミキハウススポーツスタジアムにおいて開催された。これは、連盟所属の指導者のレベルアップを目的としたもので、働大崎企業スポーツ事業研究助成財団の支援を受けて実施された。参加者は合わせて約120名。

両講習会とも、一流の講師陣が一流の技能・技術を精力的に講義していただき、受講者から「大変参考になった。今後の指導に生かしていきたい」との声が多く聞かれ、非常に有意義で充実した講習会となった。

1、選手のための栄養学

(全柔連強化委員会サポートスタッフ・寺田照子氏、奈良典子氏)

- ・食事の大切さ、摂取法、パワーアップ、減量法などテーマ別の食事戦略を詳しく解説された。

2、トレーニング法

(全柔連トレーニングドクター・射手矢岬氏)

- ・トレーニングの実際例、名選手のトレーニングからのヒント、技術に結びつく効率の良い力の使い方などが解説された。

3、講演(元全日本バレーボールチーム監督・中村祐造氏)

- ・「スポーツとは何か」。特にチャンピオンズポーツで勝つための決め手を自らの体験を中心に話された。ユーモアを交えながらの選手起用法裏話など説得力十分だった。

4、実技指導(全柔連強化副委員長・上村春樹氏、同委員・藤猪省太氏)

- ・柔道を始めてからチャンピオンになるまでの経験をもとに、組み手・体さばき・技の入り方などを伝授。受講者にとってすばらしい内容であった。

5、審判規定(全柔連審判副委員長・小野沢弘史氏、アジア柔連審判理事・川口孝夫氏)

- ・審判を行う上での心構えやジェスチャーから国際審判規定の最新の解釈まで質疑応答を交え、具体的に説明された。



中村講師



川口講師



実技指導をする上村講師と藤猪講師



審判規定の小野沢講師



第2回講習会(ミキハウス)の参加者

発行日 1999年9月30日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 ジャーナリスト 岩田久和
 印刷 ダイコロ株式会社